

大会テクニカルレポート

大会名 第8回東京都5年生選抜大会

日時 平成31年1月19日(土)・1月26日(土) 会場 南豊ヶ丘フィールド・小石川運動場・赤羽の森スポーツ公園

東京都少年サッカー連盟 委員長 吉實 雄二
技術指導部長 井上 雅志
文責 技術指導部 石井 友己

結果概要

優勝 8ブロック 準優勝 6ブロック

	試合数	得点数	1試合当たり得点数
今大会	51	198	3.88

講評 東京都少年サッカー連盟技術指導部が目指す理想の選手育成のために

①観て判断する

多くの選手がoff the ballの時に首を振り、周りをよく観て判断をしていた。しかしプレッシャーが厳しいなかでもできていた選手は少なかった。よりサポートスピードを上げ、より良い視野を確保することが求められる。またディフェンスサイドにおいて、判断の無いクリアーが多くみられた。選手育成のためには、どこのエリアであっても『観て判断する』ことにトライし、クリアーをするにしても判断を伴っておこなう必要がある。

②判断を伴ったテクニックの発揮をする(ファーストタッチの質・プレーの選択)

意図のあるプレーを正確に出来る選手が多かったブロックが良い成績を残していた。良い準備から、ファーストタッチで相手をかかわる場面も多く見られた。しかし相手の状況に応じて判断を変えようとした時はテクニックを発揮できずボールを失ってしまうことがあった。また、ルーズボールやロングボールを収めることが出来る選手は非常に少なかった。

ゴールを目指すプレーよりも、ボールを失わないプレーを選択する判断が多かった。優先順位を意識してプレーをする必要がある。もちろん無謀なプレーは良くないが、この年代だからこそ勇気を持ってゴールを目指すプレーの選択を多くしてもらいたい。

③攻守に関わり続ける

全ブロックが攻守において間延びしてしまうことが少なく、関わり続けようという姿勢を感じられた。ボールと逆サイドの選手も守備の時はカバーリングを考えたポジションをとっていたり、攻撃時には幅をとったり背後を狙ったりと関わりをもっていた。ただ攻撃時にオーバーラップする選手やミドルシュートのこぼれ球を狙っている選手は少なかった。

④積極的にコミュニケーションできる

仲間を鼓舞したり盛り上げる声は多く出ていたが、自分の考えを伝えたり、判断の助けとなるような声は少なかった。仲間とぶつかったり、ボールを見合ってしまう場面もあった。また良いコーチングができている場面でも、聞き手側がそのコーチングによって動きを変えられた場面は少なかった。自分の考えを伝えることとともに、プレーしながらも仲間の指示を聞き行動に反映させる力が求められる。

⑤リスペクトの心をもてる

順位のかかった試合になるにつれ激しさが増したが、倒れた相手選手を思いやるなどの姿をみることができた。またレフリーのジャッジにアピールすることはあったが、一度くださったジャッジについては不平、不満を言うのではなくリスペクトをして次のプレーに気持ちを切り替えていた。指導者からもレフリーのジャッジに対してしっかりとリスペクトをするような姿勢が見受けられた。

総評

今年度から大会形式が変更され、初日に予選リーグ戦4ブロック(1ブロック、4チーム)が行われ、2日目は各ブロックの上位2チームが決勝リーグ戦2ブロック(1ブロック、4チーム)、下位2チームが敢闘賞リーグ戦2ブロック(1ブロック、4チーム)に振り分けられる形となった。形式を変更したことにより拮抗した試合がより増え、大会趣旨にある『優秀な技能を持つ選手たちにより高いレベルでの試合を経験させ、将来優秀な技能を持つ選手たちにより高いレベルでの試合を経験させ、将来につながるサッカーの基とする。』という点においてより良いものになった。順位を競うことで激しさが増したが、フェアなプレーやリスペクトする姿勢は多く見られた。

一方で、失点のリスクを恐れ判断の無いプレーや、ボールを失うことを恐れて消極的なプレーも多く見られた。攻守において優先順位をしっかりと理解し、観て判断することで思い切ったプレーをより増やしてほしい。

各ブロックに技術、判断力、身体能力など高いレベルの選手が多かった。特に一人で得点ができるFW選手もいて身体能力の高さを感じた。また多くの選手がアイデアをもつて関わることで得点する場面も多く見られた。ボールを持っている選手にプレッシャーがかからないと自由にプレーし多くのチャンスが生まれた。

逆に守備時のアプローチのスピード、カバーリングやプレスバックの意識が高く、相手に自由を与えない守備ができていたブロックが良い成績を残していた。日頃から強度の高い守備の中で、判断を伴ったテクニックをより一層向上させていく必要がある。